

森林と文化

山里の聞き書き

日時：平成26年12月6日（土） 10:00～12:00

講師：清藤 奈津子（山里文化研究所 代表理事）

概況



科目名：「森林と文化」

講師 山里文化研究所 清藤 奈津子 代表理事

第1限 山里の聞き書き 一人と自然のかかわりをテーマにした学びの場ー

講義の初めに「山里の聞き書き」によって作製された本を読み、感想を出しあった。

【山里の生業と自然とのかかわり】～山里の聞き書きの背景として～

宮崎県の椎葉村の暮らしを例に山里での暮らしの様子の説明がなされた。

・椎葉村の暮らし

現金収入源としてカジノキから和紙、クズの根からデンプン、アオダモ(バッド木)からバッドなどを作製していた。自家消費用に茶や米、蕎麦などの栽培や茶の実から油の作製、麻を布にしていた。特にこの地域では焼畑による農業が盛んに行われていた。

・山村の自家消費と生業

○暮らしに必要なものは自給

建築用材、器具材、食料など。

○現金収入が必要

養蚕、炭焼き、薪、紙の原料などその土地ならではの資源を生かす。

・農産漁村の昔(燃料革命前)の暮らし

○共同(結い)の仕事

田植え、稲刈り、屋根葺き、用水の管理など。特に屋根葺きはどの山里でも共同

管理され、どの家にもカヤが半栽培されていた。

○祭り

村の人と共に恵みに感謝し、確認をする場。椎葉村の神楽は日本三大神楽のひとつ。

・燃料革命後の農産漁村の暮らし

牛・馬はトラクター、肥料は金肥、薪・炭は石油・ガス、現金収入のための生業は土木工事へ、と野山の資源が必要なくなっていくとともにお金で買う暮らし、お金が必要な暮らしに変化していった。そして、共同作業が無くなり、人と人とのつながりが無くても生きられるようになった。

【山里の聞き書き】

人と自然のかかわりをテーマに、ヨソ者が山里に学び、山里の人は自分の魅力を発見する活動。

・山里の聞き書きの方法

1ヶ所の小地域で10～15組ぐらいの聞き書きを行い1冊の本にまとめて発表する。

1対1で聞き、1人の人の物語を書く。

・活動の特徴

①聞き手、話し手が共に学ぶ

聞き手は山里の人の生きる姿勢や持続可能なあり方を学べ、話し手は自身の人生や暮らしている土地を肯定できる。

②1対1で聞き書きする

聞き手が持つフィルターを通した山里の魅力を発見することが出来る。話し手との交流。

③本を作る

話し手へのお返し。名もなき人・地域に新しい光を当てて、山里の魅力を発信していく。